

2. リユースびん実態調査

熊本県内の酒造メーカーを対象に、現状でのびんの使用状況と回収状況及びびんリユースに関する意向等の調査を行った。

1) アンケートの実施概要

(1) 調査対象

アンケートは、熊本酒造組合、球磨焼酎酒造組合のご協力により、それぞれの組合員に対して調査票を配布し、回答いただくという形式で実施した。

アンケート配布数は39件、回収数は30件であり、回収率は77%であった。

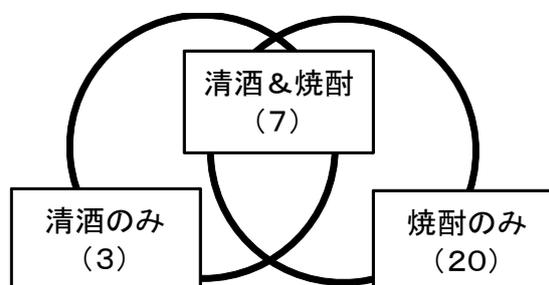
図表 2-1 アンケート回収率

発送数(A)	回答数(B)	回収率(C) (=B/A)
39	30	77%

ご協力いただいた蔵元の製造酒類による内訳は次表のとおりで、焼酎のほか清酒メーカーにもご協力いただいた。

図表 2-2 酒造の酒類による蔵元数

	蔵元数
清酒のみ	3
焼酎のみ	20
清酒と焼酎	7



(2) 調査期間

アンケート用紙は1月18日に二つの酒造組合に送り、さらに各蔵元に配布した。回収は約2週間後の2月1日とした。

調査票は次頁のとおりである。

アンケート調査票

ご返送先: 熊本酒造組合 FAX 096- -

(1枚目/2枚中)

2月1日(水)を目途に、熊本酒造組合までFAXにてお送りいただけますようお願いいたします。

ガラスびんの利用・環境負荷低減に向けた取組に関するアンケート調査

問1 平成22年(平成22年1月～12月)の酒の課税出荷量についてご回答ください。

	清 酒	単式蒸留焼酎
平成22年 課税出荷量	k L	k L

問2 平成22年(平成22年1月～12月)の出荷容器の割合についてお伺いします。合計が100%となるよう、それぞれの割合をご回答ください。(おおよそで結構です)

	ガラスびん	ペットボトル	紙パック	その他	合計
清酒	%	%	%	%	100%
単式蒸留焼酎	%	%	%	%	100%

問3 平成22年(平成22年1月～12月)のガラスびんの種類毎の出荷本数をお伺いします。(おおよそで結構です)

	清 酒	単式蒸留焼酎
出荷びん本数	1,800ml	本
	900ml	本
	720ml	本
	その他	本

出荷先による本数をお伺いします。合計を100%としてお答えください。(おおよそで結構です)

	熊本県内	その他九州地域	その他(九州以外)	合計	
出荷びん本数 (清酒)	1,800ml	%	%	%	100%
	900ml	%	%	%	100%
	720ml	%	%	%	100%
	その他	%	%	%	100%
出荷びん本数 (焼酎)	1,800ml	%	%	%	100%
	900ml	%	%	%	100%
	720ml	%	%	%	100%
	その他	%	%	%	100%

問4 新びんと使用済みびんの割合についてお伺いします。合計を100%としてお答えください。(本数概算)

	新びん	使用済みびん(回収びん)		合計	
		自社で洗浄	洗びんを購入		
ガラスびん出荷本数 (清酒)	1,800ml	%	%	%	100%
	900ml	%	%	%	100%
	720ml	%	%	%	100%
	その他	%	%	%	100%
ガラスびん出荷本数 (焼酎)	1,800ml	%	%	%	100%
	900ml	%	%	%	100%
	720ml	%	%	%	100%
	その他	%	%	%	100%

* 使用済みびんとは、回収されたびんを貴社で洗浄し再使用(リユース)、または、びん商・洗びん業者から洗いびんを購入し、再使用しているケースを想定しています。

2月1日(水)を目途に、熊本酒造組合までFAXにてお送りいただけますようお願いいたします。

問5 リユースびん(びんの再使用)は、一回のみの利用で廃棄してしまう他の容器と比べて環境負荷の小さい容器とされています。1, 800ml(一升びん)、900mlや720ml(中容量びん)に関する回収びん(洗いびん)の今後の利用意向についてお伺いします。また、その理由についてもお聞かせください。
(当てはまるもの一つに○を付けてください)

1, 800ml(一升びん)について	900mlや720ml(中容量びん)について
1. 回収びん(洗いびん)を積極的に利用したい	1. 回収びん(洗いびん)を積極的に利用したい
2. 回収びん(洗いびん)を条件次第で利用したい	2. 回収びん(洗いびん)を条件次第で利用したい
3. 回収びん(洗いびん)は利用したくない	3. 回収びん(洗いびん)は利用したくない
4. 分からない	4. 分からない

上記選択肢を選んだ理由についてお聞かせください。

--	--

問6 貴社で実施されている社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組についてお伺いいたします。現在、推進・取り組まれている内容についてお聞かせください。(当てはまるものすべてに○を付けてください)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境マネジメントシステム*の導入 2. 地域における清掃活動・美化運動への参加、協力 3. 地域集団回収(使用済みびんなど)への協力 4. リユースびん(回収びん・洗びん)の利用 5. 軽量びんの利用 6. 紙パックのリサイクルの推進 7. 紙パックのパッケージフィルムの削減 8. 自然エネルギーの導入(太陽光発電、太陽熱給湯、風力発電など) 9. 省エネ機器の導入(高性能ボイラの導入など) 10. 焼酎かすリサイクルの推進 11. その他(具体的に: _____) 	
--	--

*環境マネジメントシステムとは、事業者が自主的に環境保全に関する取組を進めるための体制・手続き等の仕組みのこと。環境省が策定した「エコアクション21」や国際規格「ISO14001」などがあります。

問7 今後の社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組についてお伺いします。(当てはまるもの一つに○を)

1. 積極的に取り組んでいく	2. 取り組んでいく
3. 特別な取り組みはしない	4. 分からない

問8 環境省九州地方事務所では、九州地域におけるびんのリユースを推進するための情報提供などの支援を進めたいと考えています。今後、リユースびんの利用促進に関する情報提供を希望されますか。

(当てはまるもの一つに○を)

1. 情報提供して欲しい	2. 情報提供は不要	3. 分からない
--------------	------------	----------

* ご回答いただいた方についてご記入をお願いします。

貴社名			
所属部署・お名前			
連絡先	電話:	FAX:	
	E-mail:		

ご協力誠にありがとうございました。

*本アンケート調査で知り得た情報につきましては、リユースびんの普及促進以外の目的で使用することはありません。また、酒造メーカー様個々の情報が公表されることもありません

2) アンケート調査結果

(1) 課税出荷量

各蔵元から出荷される（一部製造のみを含む）量は、清酒が1,675 kL、焼酎が18,895 kLであり、焼酎に関しては、熊本県内の平成22年度の課税出荷量（20,448 kL）に対して92%にあたる。

蔵元の規模を整理すると図表2-3のとおりであり、清酒よりも焼酎の方が大きくなっているが、非常に幅の広いことが一つの特徴と言える。

図表2-3 酒類による蔵元情報

	出荷量 kL/年（蔵元規模）				規模別蔵元数					
					合計	～	10～	100～	1000～	10000
	総量	平均	最大	最小		10kL/年	100	1000	10000	～
清酒	1,675	167	417	6	10	1	4	5	0	0
焼酎	18,895	700	12,000	0.4	27	4	9	11	2	1

(2) 容器別の出荷割合

ガラスびんをはじめ容器ごとの出荷割合を整理すると図表2-4のとおりである。

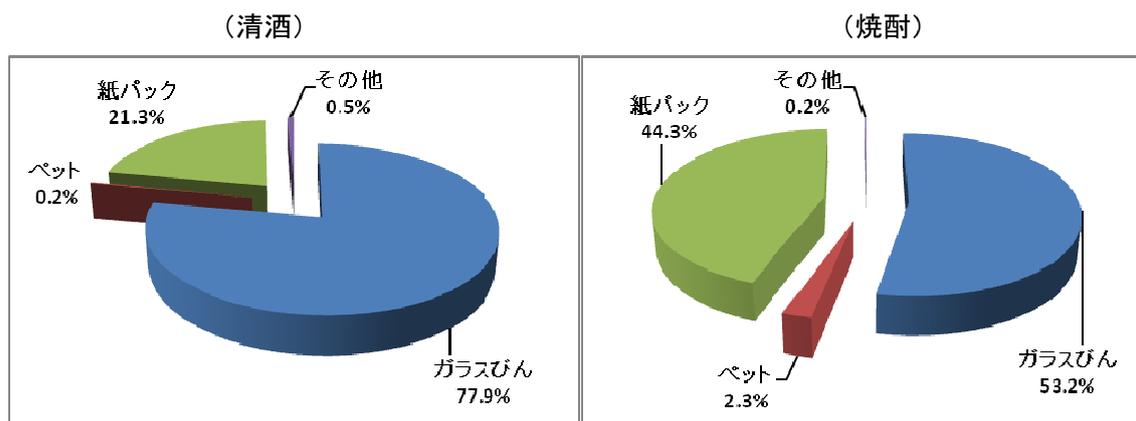
清酒も焼酎も最も出荷割合の大きいのは、「ガラスびん」であるが、焼酎では「紙パック」が「ガラスびん」に迫る量となっている。

図表2-4 容器別出荷量

容器種類	清酒		焼酎	
	量(kL/年)	割合	量(kL/年)	割合
ガラスびん	1,305	77.9%	10,049	53.2%
ペット	4	0.2%	435	2.3%
紙パック	357	21.3%	8,377	44.3%
その他	9	0.5%	34	0.2%
合計	1,675	100%	18,895	100%

集計対象蔵元数: 清酒 10

焼酎 27



(3) ガラスびんによる出荷量

①出荷本数

ガラスびんの出荷本数に容量別の割合を乗じて、容量別の出荷本数を整理すると図表2-5のとおりである。

清酒では最も多いのは「その他」であり、次いで「1,800mL」、「720mL」の順となっている。

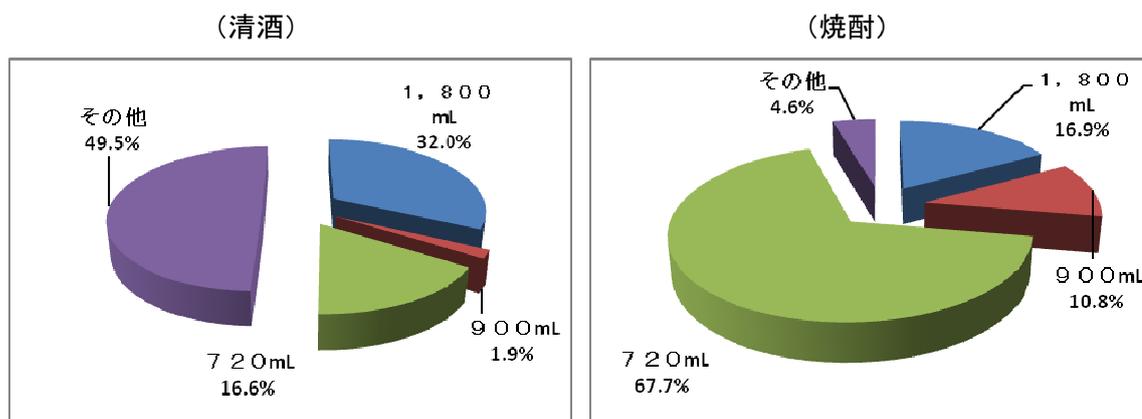
一方、焼酎では「720mL」が最も多く、「1,800mL」、「900mL」の順となっている。昨年の鹿児島県の調査結果（1,800mL 34.7%、900mL 25.6%、720mL 34.2%、その他 5.4%）とは異なる傾向が見られる。

図表2-5 ガラスびんによる出荷本数

容器容量	清酒		焼酎	
	本数(千本)	割合	本数(千本)	割合
1,800mL	482	32.0%	1,525	16.9%
900mL	28	1.9%	974	10.8%
720mL	249	16.6%	6,094	67.7%
その他	745	49.5%	413	4.6%
合計	1,504	100%	9,006	100%

集計対象蔵元数: 清酒 10

焼酎 26(1社は容量別本数の情報が不明)



②出荷容量

容量ごとに、容量×本数によって容量換算した結果は、図表2-6のとおりである。

出荷本数に比べると「1,800mL」容器の割合が大きくなったが、それでも焼酎では、「720mL」が約半量を占めている。

図表2-6 容量別出荷量

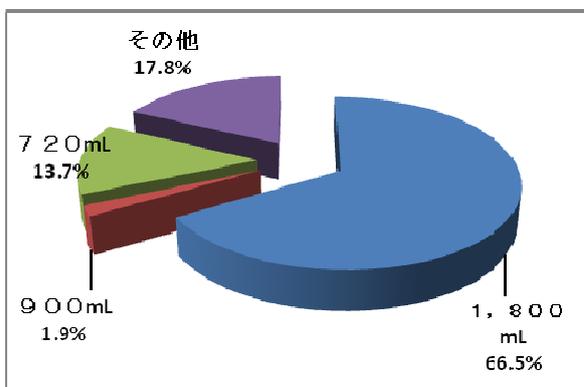
容器容量	清酒		焼酎	
	量(kL/年)	割合	量(kL/年)	割合
1,800mL	868	66.5%	2,745	27.7%
900mL	25	1.9%	877	8.8%
720mL	179	13.7%	4,387	44.3%
その他	232	17.8%	1,905	19.2%
合計	1,305	100%	9,914	100%

* 集計対象蔵元数: 清酒 10

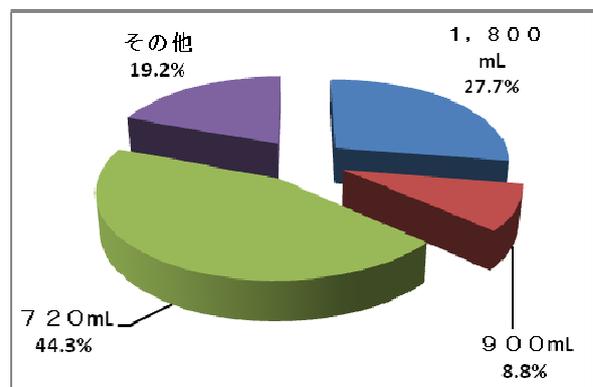
焼酎 26(1社は容量別本数の情報が不明)

* 各項目の合計と合計欄は、四捨五入の関係で必ずしも一致しない

(清酒)



(焼酎)



(4) ガラスびんによる地域別出荷量（出荷本数）

ガラスびんの出荷本数に地域ごとの割合を乗じて、地域別の出荷本数を整理すると図表 2-7～2-10 のとおりである。

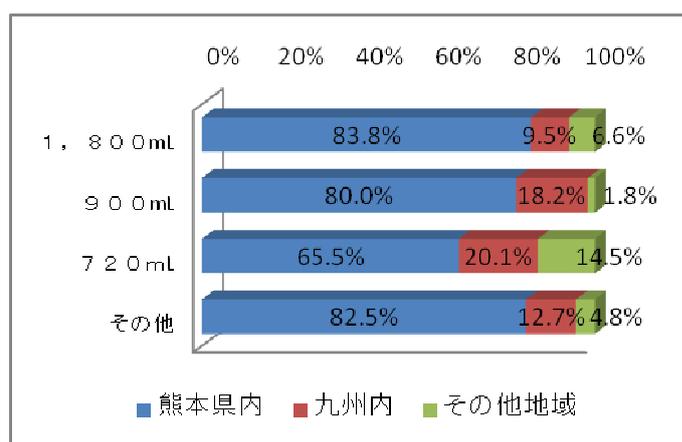
清酒では「熊本県内」が 80% と最も多く、次いで「九州内」、「その他地域」となっており、この傾向は全ての容量において同じである。

図表 2-7 ガラスびんの地域別出荷本数（清酒）
出荷本数:千本

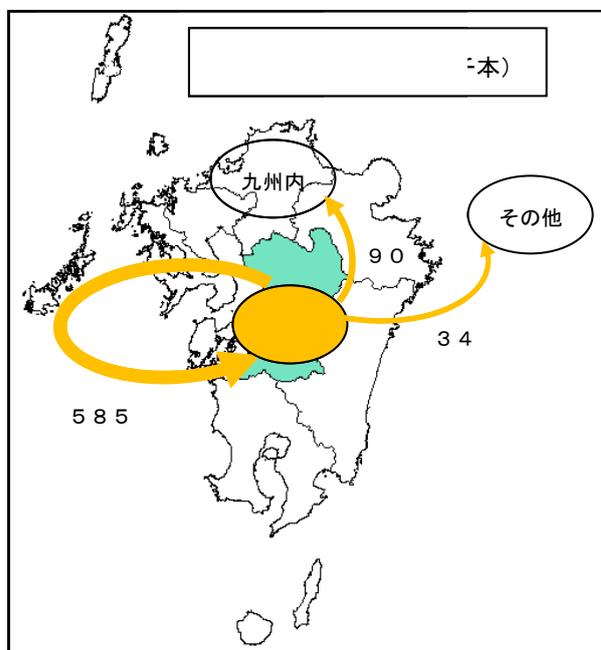
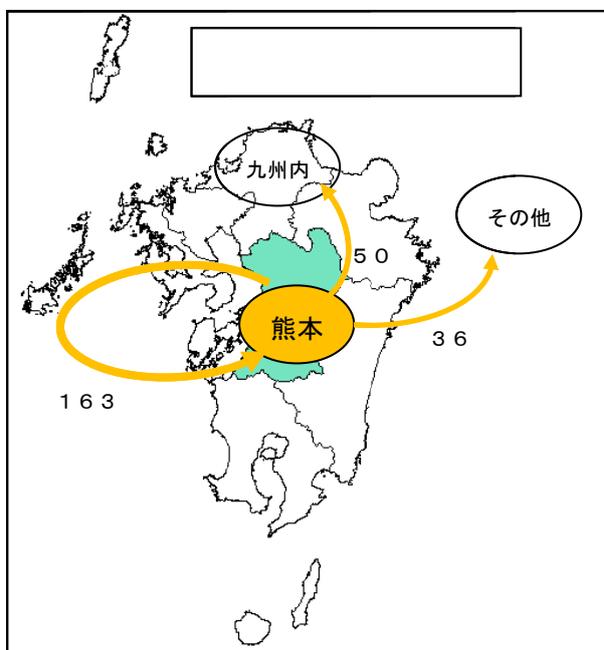
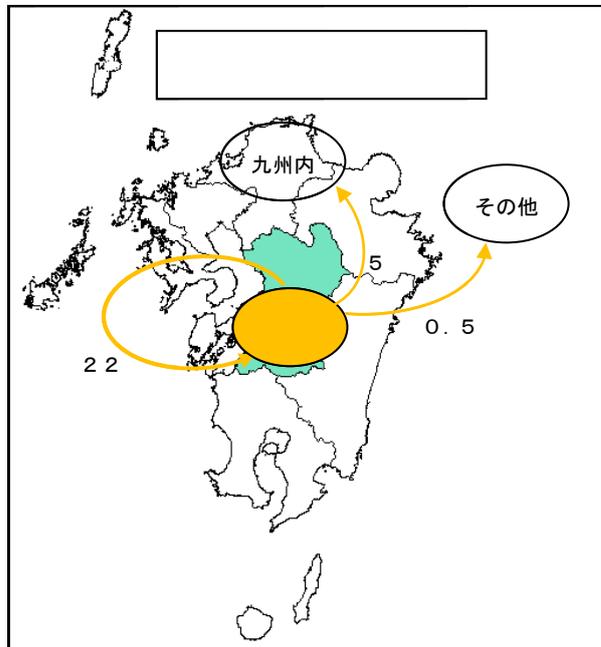
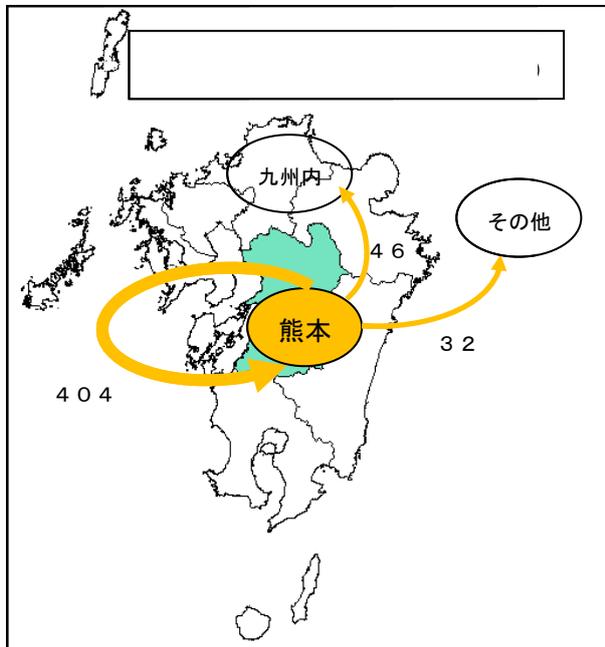
		熊本県内	九州内	その他地域	合計
1, 800mL	出荷本数	404	46	32	482
	割合	83.8%	9.5%	6.6%	100%
900mL	出荷本数	22	5	0.5	27.5
	割合	80.0%	18.2%	1.8%	100%
720mL	出荷本数	163	50	36	249
	割合	65.5%	20.1%	14.5%	100%
その他	出荷本数	585	90	34	709
	割合	82.5%	12.7%	4.8%	100%
合計	出荷本数	1,174	191	102.5	1,467.5
	割合	80.0%	13.0%	7.0%	100%

* 集計対象蔵元数 10

* 容量別の出荷割合の情報が完全でないため、合計本数は図表 2-5 と一致しない



図表 2-8 ガラスびんの地域別出荷フロー（清酒）



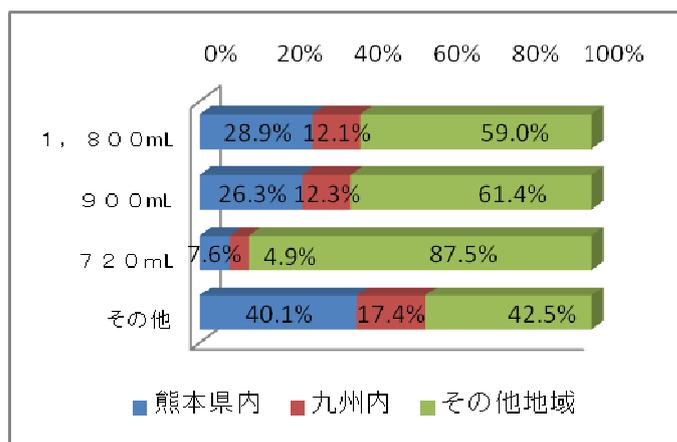
一方、焼酎では「その他地域」が79%と最も多く、次いで「熊本県内」、「九州内」の順となっており、清酒とは異なる傾向となっている。また、昨年調査の鹿児島県（鹿児島県内29%、九州内12%、その他地域59%）と比較すると、九州の外へ出荷される割合が多くなっている。

図表2-9 ガラスびんによる地域別出荷本数（焼酎） 出荷本数:千本

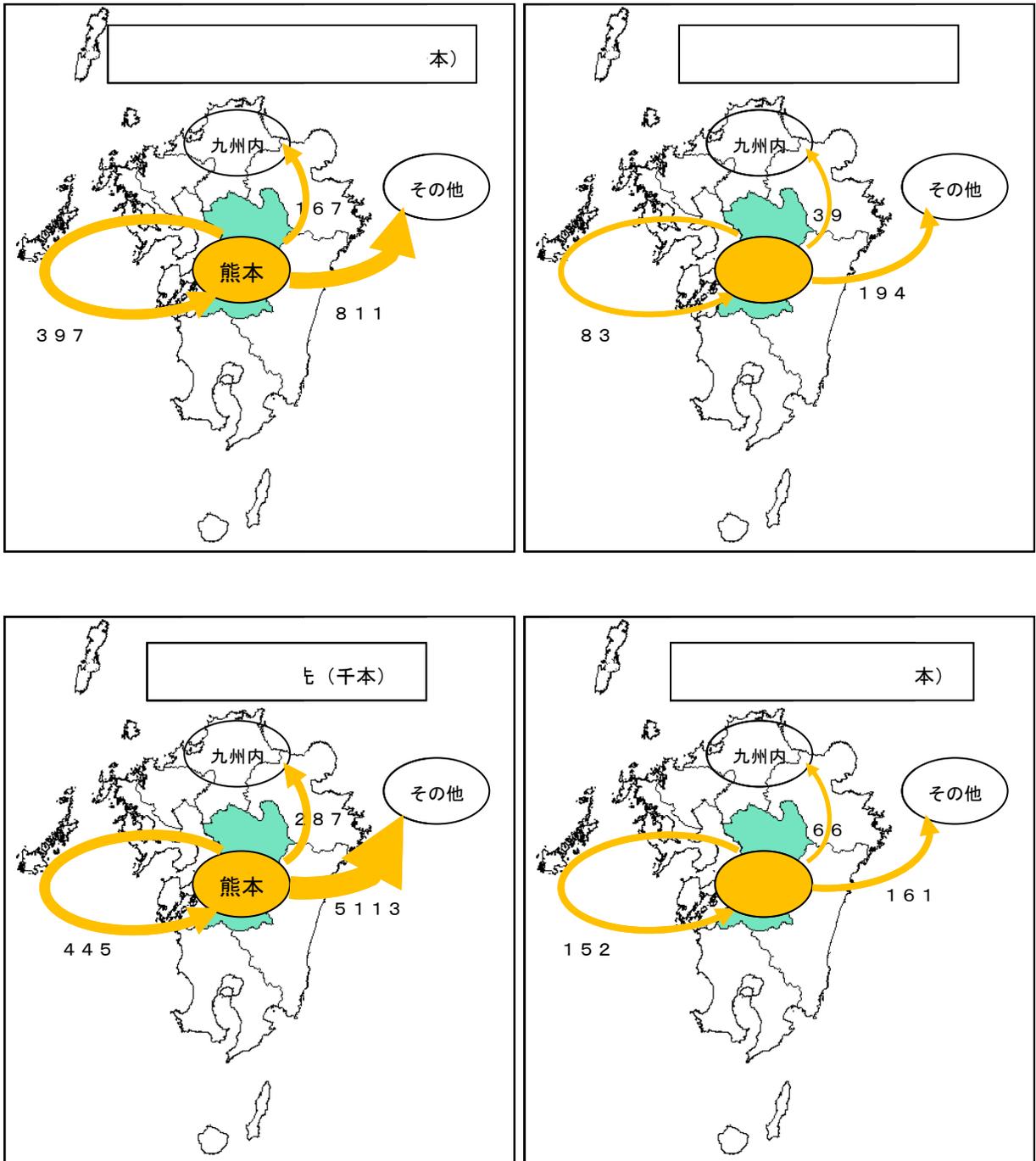
		熊本県内	九州内	その他地域	合計
1,800mL	出荷本数	397	167	811	1,375
	割合	28.9%	12.1%	59.0%	100%
900mL	出荷本数	83	39	194	316
	割合	26.3%	12.3%	61.4%	100%
720mL	出荷本数	445	287	5,113	5,845
	割合	7.6%	4.9%	87.5%	100%
その他	出荷本数	152	66	161	379
	割合	40.1%	17.4%	42.5%	100%
合計	出荷本数	1,077	559	6,279	7,915
	割合	13.6%	7.1%	79.3%	100%

* 集計対象蔵元数 25

* 対象蔵元数の違い及び容量別の出荷割合の情報が完全でないため、合計本数は図表2-5と一致しない



図表 2-10 ガラスびんの地域別出荷フロー（焼酎）



(5) びんの回収状況

①蔵元数調査

回収びんの使用状況について蔵元による対応を整理すると図表2-11、2-12のとおりである。

清酒では、「1,800mL」のみ回収びんを使用している蔵元数は3社、その他の7社は中容量についても回収びんを使用している。また、「1,800mL」については5社が100%回収びんで賄っているのに対して、中容量で100%回収びんを使用しているのは1社のみであった。

一方、焼酎では27社の内、「1,800mL」のみ回収びんを使用しているのは17社で、全てのびんで回収びんを使用しているのが8社、回収びんを使用していないのが2社であった。さらに、「1,800mL」については100%回収びんで賄っているのが13社あったのに対して、中容量びんでは18社が新びんのみの使用であった。

図表2-11 回収びんの使用蔵元数（清酒）

	1,800mLのみ	中容量その他	全びん
蔵元数	3	0	7
割合	30.0%	0.0%	70.0%

集計対象蔵元数:10

図表2-12 回収びんの使用蔵元数（焼酎）

	1,800mLのみ	中容量その他	全びん	使用なし
蔵元数	17	0	8	2
割合	63.0%	0.0%	29.6%	7.4%

集計対象蔵元数:27

②出荷本数

ガラスびんの出荷本数に新びんと回収びんの割合を乗じて、出荷びんの回収状況を整理すると図表2-13、2-14のとおりである。

清酒では、「1,800mL」の約95%が回収びんであり、自社で洗浄しているのは約43%となっている。これに対して、中容量では、「900mL」で約46%が回収びんとなっているものの「720mL」や「その他」では90%以上が新びんとなっている。

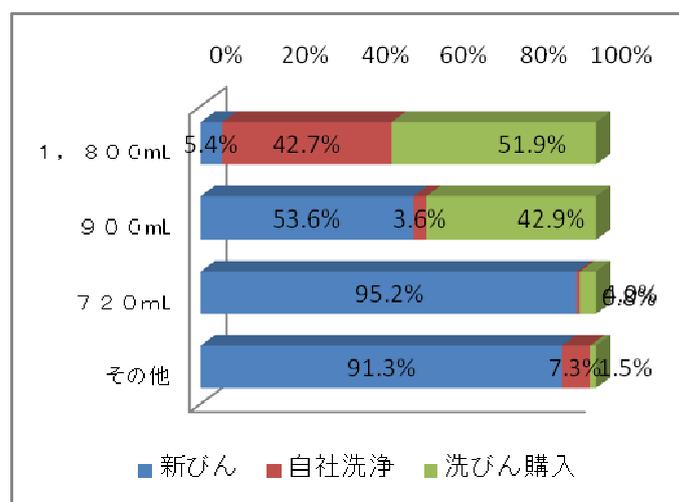
図表2-13 びんの回収状況（清酒）—本数—

出荷本数:千本

		新びん	使用済みびん(回収びん)		合計
			自社洗浄	洗びん購入	
1,800mL	出荷本数	26	206	250	482
	割合	5.4%	42.7%	51.9%	100%
900mL	出荷本数	15	1	12	28
	割合	53.6%	3.6%	42.9%	100%
720mL	出荷本数	237	2	10	249
	割合	95.2%	0.8%	4.0%	100%
その他	出荷本数	679	54	11	744
	割合	91.3%	7.3%	1.5%	100%
合計	出荷本数	957	263	283	1,503
	割合	63.7%	17.5%	18.8%	100%

* 集計対象蔵元数 10

* 計算時の四捨五入、容量別の回収割合の情報が完全でないため、合計本数は図表2-5、2-7と一致しない



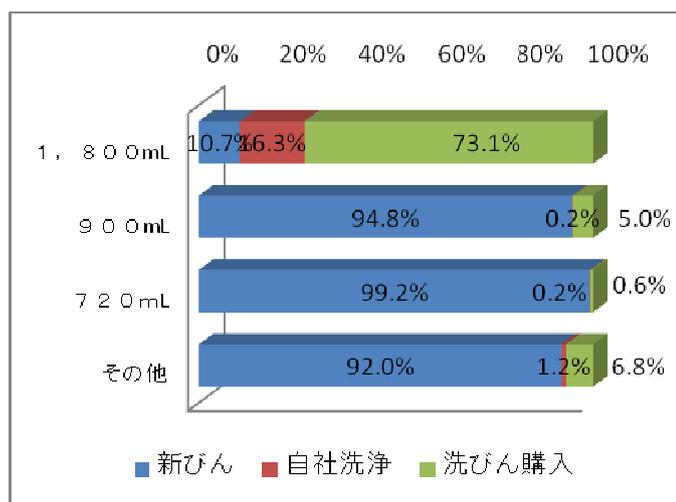
一方、焼酎では、清酒よりも新びんの割合が増え、約83%が新びんとなっており、「1,800mL」でも10%以上が新びんとなっている。また、鹿児島県（新びん76%、自社洗浄13%、洗びん購入11%）と比較しても新びんの割合が大きくなっている。

図表2-14 びんの回収状況（焼酎）－本数－ 出荷本数:千本

		新びん	使用済みびん(回収びん)		合計
			自社洗浄	洗びん購入	
1,800mL	出荷本数	163	248	1,115	1,526
	割合	10.7%	16.3%	73.1%	100%
900mL	出荷本数	923	2	49	974
	割合	94.8%	0.2%	5.0%	100%
720mL	出荷本数	6,043	13	37	6,093
	割合	99.2%	0.2%	0.6%	100%
その他	出荷本数	379	5	28	412
	割合	92.0%	1.2%	6.8%	100%
合計	出荷本数	7,508	268	1,229	9,005
	割合	83.4%	3.0%	13.6%	100%

* 集計対象蔵元数 26

* 対象蔵元数の違い、容量別の回収割合の情報が完全でないため、合計本数は図表2-5、2-9と一致しない



(6) びんリユースに関する意向

びんリユースに関する意向を調査したところ、「1,800mL」容器に関しては、「積極的に利用したい」が約83%であり、「条件次第」迄含めると全ての蔵元で利用したいという意向であったのに対して、中容量やその他の容量容器に関しては、1/3の蔵元が「利用したくない」、「分からない」という回答であった。中容量容器に関しては、昨年の鹿児島県（積極的に利用したい14.3%、条件次第で利用したい46.0%、利用したくない28.6%、分からない9.5%）とほぼ同様の傾向であった。

図表2-15 リユースびんに関する意向

	1,800mL		中容量・その他	
	蔵元数	割合	蔵元数	割合
積極的に利用したい	25	83.3%	7	23.3%
条件次第で利用したい	5	16.7%	13	43.3%
利用したくない	0	0.0%	8	26.7%
分からない	0	0.0%	2	6.7%
合計	30	100%	30	100%

リユースびんに対する自由意見を整理すると図表2-16、2-17のとおりである。

「1,800mL」容器では、「コストが安い」、「環境負荷が少ない」など概ねリユースびんに対する肯定的な意見が多く寄せられたが、中容量については、肯定的な意見も散見されたものの「回収するシステムが確立されていない」、「使用できるびんが少ない」、「キズや焼けなど品質に懸念がある」、「洗びんのための設備投資や手間が必要」など、否定的な意見の方が多く寄せられた。

図表2-16 1,800mLリユースびんに関する意見（自由意見）

肯定的 ↑ ↓ 否定的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安価である（同様の意見が他に10件） ・ 環境負荷が小さい（同様の意見が他に6件） ・ 作業性、衛生面、安全性で問題がない（同様の意見が他に2件） ・ 各段階でマージンが発生し、みんなが儲かる ・ 廃品回収を通じて学校教育に資金が流れる ・ 新びんでも洗う必要があり手間は変わらない ・ 現在使っている ・ 当然 ・ 近年回収びんの品質が劣化しており、洗浄コストも高くなっている
----------------------	---

図表 2-17 中容量リユースびんに関する意見（自由意見）

肯定的	<ul style="list-style-type: none">・ 安価である（同様の意見が他に 2 件）・ 環境負荷が小さい（同様の意見が他に 2 件）・ 回収びんで問題がない・ 新びんでも洗う必要があり手間は変わらない・ 当然・ 問題がなければ使う（同様の意見が他に 1 件）・ 安全性を確認できることが条件・ 消費者の希望による・ 新びんも使用後回収、破碎され利用されておりそれでよいと思う・ 回収のシステムが確立していない（同様の意見が他に 2 件）・ 中容量用の洗びん機がない（同様に洗びんに関する意見が 2 件）・ キズ、表面の焼けなどが多い（同様にびんの品質に関する意見が 4 件）・ 使用できるびんがない（同様にびんに関する意見が 9 件）
否定的	

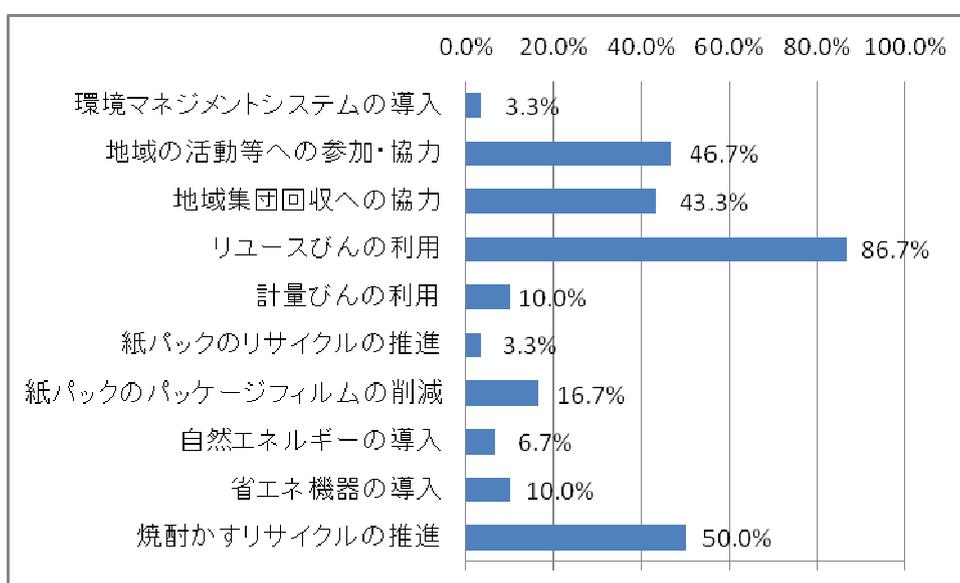
(7) 社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組について

複数回答で調査したところ、最も多かった項目は、「リユースびんの利用」であり、30社中26社（87%）が実施していると回答している。次いで多かったのが、「焼酎かすのリサイクル」（15社、50%）、地域の活動等への参加・協力（14社、47%）、地域集団回収への協力（13社、43%）の順となっている。

図表2-18 社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組状況

	回答数	割合
環境マネジメントシステムの導入	1	3.3%
地域の活動等への参加・協力	14	46.7%
地域集団回収への協力	13	43.3%
リユースびんの利用	26	86.7%
計量びんの利用	3	10.0%
紙パックのリサイクルの推進	1	3.3%
紙パックのパッケージフィルムの削減	5	16.7%
自然エネルギーの導入	2	6.7%
省エネ機器の導入	3	10.0%
焼酎かすリサイクルの推進	15	50.0%

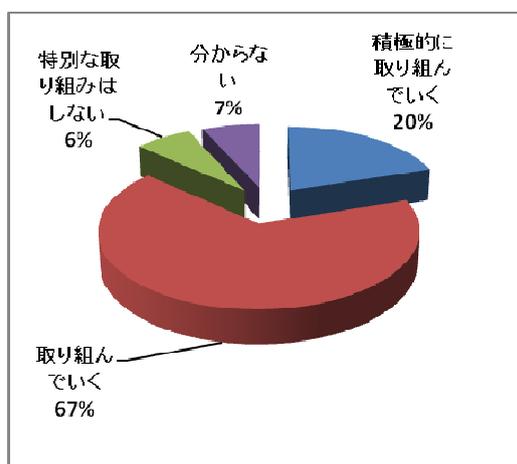
図表2-19 社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組状況



また、今後の取組予定については、30社中26社が取り組んでいくと回答している。

図表2-20 今後の社会貢献活動・環境負荷低減に向けた取組

	回答数	割合
積極的に取り組んでいく	6	20.0%
取り組んでいく	20	66.7%
特別な取り組みはしない	2	6.7%
分からない	2	6.7%
合計	30	100%

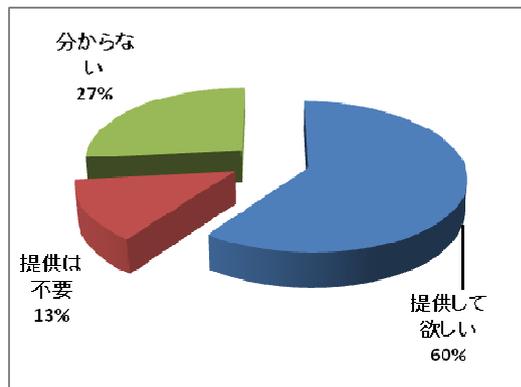


(8) リユースびんに関する情報提供について

リユースびんに関する情報提供について確認したところ、提供を希望する社は30社中18社であった。

図表2-21 リユースびんに関する情報提供

	回答数	割合
提供して欲しい	18	60.0%
提供は不要	4	13.3%
分からない	8	26.7%
合計	30	100%



(9) 今後の課題等（まとめ）

平成22年度（鹿児島県）及び平成23年度（熊本県）に実施したアンケート調査結果を整理して今後の課題等を抽出すると次のとおりである。

- ①焼酎に限ってみれば、ガラスびんの容量が小さくなるほど、九州地域以外の地域への出荷量が増える傾向にあり、900mL容器で50%を超え、720mL容器では70%を超える割合となっている。
- ②一方回収びんの使用状況では、焼酎に限ってみれば、1,800mL容器については鹿児島県と熊本県で使用割合に差が見られた（鹿児島県では回収びんの使用割合は約60%、熊本県では約89%）ものの中容量の回収びんの使用割合は概ね10%を下回っており、特に720mLについては、1%をも下回る結果であった。
- ③蔵元に対する回収びん使用の意向調査では、1,800mL容器に比べて中容量容器では否定的な意見も散見されたが、一部のびんに対する特性を除けば、びん回収に関するシステムが確立していない点やコスト面が要因と考えられ、これらが解消されれば使用の可能性が高まる期待が感じられた。
- ④リユースの促進に向けては、一升びんのリユースを維持・拡大するとともに中容量についてもシステム作りをはじめ可能性拡大の検討を進めることが肝要で、その中の具体策例としては、すでに実践している蔵元の取組内容を把握し、「取組事例集（仮称）」として整理、公表することが有効と考えられる。
- ⑤さらに、アンケート地域の拡大を図りつつ「取組事例集（仮称）」の拡充を図り、広報・PR用ツールとして活用することでびんリユースの普及拡大にも繋がると考えられる。

3) 「取組事例集（仮称）」作成の検討

九州地域にはびんリユース推進に向けて事業実施・啓発活動を精力的に行っている事業者・地域・団体等（以下、事業者等）が複数存在する。びんリユースの推進に当たっては、創意工夫のもと、自主的に活動しているケースが多く、平成24年度以降、これらに応援・支援する取組みとして「取組事例集（仮称）」を作成する予定である。

「取組事例集（仮称）」は、各取組み主体に取材の上、びんリユース推進に向けた活動を整理、九州地方環境事務所ウェブサイト公表、関連イベントでの広報・PR等を行うことを想定する。

(1) 「取組事例集（仮称）」作成・整理の目的

平成24年度以降作成する予定である「取組事例集（仮称）」を作成する目的としては、以下の2つを想定する。

【目的1】 びんリユースシステムを実施する事業者・地域・団体等の広報・PR

- ・現時点でびんリユースを実践している事業者等を、九州地方環境事務所のウェブサイトや、実施する事業・イベント等を通じて、広報・PRを行う。これにより、びんリユースを実践する事業者等の取組みの拡大・深度化を期待するとともに、身近で具体的な事例を広報・PRすることで、広く消費者にも認知してもらうことを目的とする。

【目的2】 他の事業者・地域・団体等がびんリユースを取組む際に参考情報の提供

- ・今後、新規にびんリユースを検討する事業者等に対して、取組み概要とともに、どのように構築したか（手順・段階）、構築時に苦労した点などについての情報を提供することで、新たなびんリユースシステム構築の支援を行う。
- ・具体的には、「取組みのきっかけ・経緯」、「関係主体への働きかけ・調整の方法」、「実施の上で苦労した点」、「今後の展望」などを把握・整理することが望ましいと考える。

(2) 「取組事例集（仮称）」作成の方針

取組事例集（仮称）には、出来るだけ多くの事業者等を掲載した方がよいという考え方がある反面、九州地方環境事務所が積極的に広報・PRし、他の事業者等への参考情報を提供することを考えると、能動的・自主的な取組みと、受動的な取組みについてはある程度分けて整理する必要がある。

具体的には、900mLびんや720mLびんなどのリユース（能動的な取組み）と、一升びんのリユース（相対的に受動的な取組み）は分けて整理することが想定される。

取組事例集作成時のポイント・アイディアを図表2-22に整理し、事例集のイメージを図表2-23に示す。

図表2-22 「取組事例集（仮称）」作成時のポイント・アイディア

- 一升びん、ビールびんのように既にリユースシステムが構築されているびんに対する取組みと、900mL、720mLなどの自主的な取組みを区別して整理する。（一升びん、ビールびんでのリユースを排除するものではないが、より特徴的な活動を取り上げる。）
- これまでに実施した蔵元に対するアンケート調査での結果等も踏まえ、実際にびんリユースを実践している蔵元を抽出し、事例集として取りまとめることを打診する。（平成22年度の鹿児島県調査、平成23年度の熊本県調査）
- 酒造メーカーでの取組みだけでなく、びん商、行政、市民団体など幅広い取組みを対象とする。また、酒造メーカー以外、例えば、清涼飲料、宅配なども対象とする。
- 九州地方環境事務所でのウェブサイトで公表、これらの自主的な取組みを広報・PR。類似の取組みが、他の事業者・団体へも展開するよう期待する。
- 取組事例集（仮称）はA4一枚程度でまとまるものとし、今後、冊子としてイベント等での配布、パネルにして展示するなどの活用方策も検討できる。
- 事例については、継続募集するものとし、事業者・団体からの申請をもってHPに掲載していく。（定期的に特に優れた取組みを表彰することも検討）
- 事例集作成においては、環境省廃棄物・リサイクル推進部企画課リサイクル推進室が作成・公表を行っている事例集や実証事業の内容とも連携・整合を図りつつ進める。
(http://www.returnable-navi.com/various/event/kento/img/comittee7_07.pdf)

図表 2-23 事例集のイメージ

××××株式会社

1. びんリユースシステムの取組

・同社の主力製品であり「××××」について、900mlRマークびんを採用。回収・洗浄し繰り返し利用している。平成16年度から実施し、年間△△万本程度出荷している。



・どのような製品、びんを対象にしているか。

・消費者がその商品を応援しやすいよう、写真を交えて掲載

2. 実施スキーム

・主に九州内で出荷された商品の空きびんを回収。卸経由で回収。全体の3割程度をリユース。
・地域集団回収からもリユースびんを買い取り、再利用している。

年度	県内回収	県内回収率	回収割合
16年度	20万	28.8%	98.0%
17年度	33万	41.8%	95.5%
18年度	36万	45.6%	93.6%
19年度	43万	60.2%	94.8%
20年度	45万	67.4%	95.7%
21年度	42万	68.4%	95.7%

・実際にどの程度リユースをしているか

・出荷本数に対する回収本数、リユース本数などを定量的に掲載

3. ポイント

- ◆Rマークびんを使用
- ・リユース利用に適したRマークびんを使用。
- ◆地域ごとに出荷方法を工夫
- ・鹿児島・九州への出荷はP箱を利用。関東、その他地域へはP箱の散逸を防ぐため、段ボールで出荷。

・実際にリユースするためにどのような取組をしたのか。

・取組経緯などとともに掲載し、他の事業者の参考とする

4. 連絡先

××××株式会社
URL: <http://××××>
住所: 鹿児島県伊佐市××××

・企業の所在地などを記載。

・その他 PR(環境への取組み)などもあれば併記できるようにする。

(3) 今後整理すべき事項

取組事例集(仮称)の作成に向けて、今後整理すべき事項を図表2-24に整理する。なお、応募要件、審査要件、審査プロセスなどは、募集要領として整理していくことが想定される。

また、類似する事例集として、環境省「びんリユースシステムの成功事例集」(平成23年11月14日版)なども存在しており、その整合性・差異化等を検討する必要がある。

以下、整理すべき事項(案)は、これらは現時点での案であり、詳細については平成24年度以降、改めて検討を行う。

さらに、掲載候補案を図表2-25に示す。

図表 2 - 2 4 取組事例集（仮称）の作成に向けて整理すべき事項（案）

整理項目	作成方針（案）
受付機関	環境省九州地方環境事務所 （※事務事業の一部は、コンサルタント等に委託を想定。）
募集期間	原則、継続的に募集を行い、定期的に審査を行う。
応募要件	九州管内に所在する事業者、団体、自治体等
作成方法	事業者等から申請書を提出いただき、取組事例集（仮称）として取り上げるのにふさわしいか審査を行う。申請書で不明な点は、ヒアリング調査を実施する。
審査方法	審査は、九州地方環境事務所内で審査会議を設置。申請書をもとに審査を行う。

表 2 - 2 5 取組事例集の候補（案）

事例候補	取組概要
大口酒造株式会社	900mLRびんを使用し、びんリユースに取組む。卸・小売経由で空きびんを回収し、自社で洗浄、九州圏内ではP箱で出荷。
その他、900mLRびん採用企業	例えば、マルイリ醤油では、醤油各種、白だし、みりんなどで900mLRびんを使用しリユースに取り組む。
岩川醸造株式会社	900mL丸正びんのリユースを実施。酒販小売のやまや、びん商の吉川商店と連携し、プライベートブランドにてリユースを推進。
グリーンコープ	宅配事業において、飲料、調味料、食品など、様々な用途にリユースびんを使用。特に牛乳びんについては、約99%の回収率を維持し、消費者に広く受け入れられている。
奄美市	NPO法人と連携した事業、エコマネーを使って、消費者から黒糖焼酎の空きびんを回収、NPO法人にて洗浄のうえ、地域内の事業者に再利用を促す。
水俣市	資源回収の分別項目にRびんを設定、他のびんと混在しないよう回収し、水俣エコタウンにて洗浄のうえ、酒造メーカー等にて再利用される。

*公開資料等をもとに整理。その他にも、数多くのリユース事例が存在すると想定している。